

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 75号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2017. 11. 28

編集 芳村恵子

～青少年問題とは？～

青少年育成推進指導員と

アドバイザーの合同研修会

日時：平成29年11月14日

会場：倉吉市伯耆しあわせの郷

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
会長 山本邦彦

まずは、私が少し時間を頂いて、青少年問題とは？をテーマに我らアド連の認識を紹介した。これらの問題の解消を目指して運動を続けているのが県民会議であり、アド連である。アド並びに推進指導員にはこれらの運動の単身指導者であり、市町村民会議のリーダーであることを説明し、その自覚と行動化をお願いした。

特に親子関係の希薄化や人間関係づくり(コミュニケーション能力の低下)が上手くできない事などは家庭の教育力の低下によるものであり、これを親が多忙で子どもと関わる時間が少なくなったので仕方ないとする考え方は、良くないと指摘した。我らの運動の中で、せめて家庭の日には、「子どもと一緒に〇〇しよう」と呼びかけ、啓発するよう訴えた。少しでも子供と一緒に時間を過ごす。食事でも、炊事・洗濯・掃除・遊び・買い物など、〇〇に入れる事柄は何でもよいから…。これにより、親子の絆は強くなり、親子関係の希薄化は少しでも改善されると信じる。



社会規範意識の低下については、社会の教育力の低下で、行政も社会教育に力を入れなくなっている。その為、子ども達が地域活動をしなくなったことに起因している。年齢の異なる人たちと関り合うために、地域の様々な行事・事業に子どもの出番を意識して多くつくっていくことが必要と訴えた。

私に続いて、中谷靖さんが、「子どもの居場所づくりや子ども食堂の取り組み」について、自ら塾長を勤める「子ども未来塾」の運営について講演して頂いた。

この中谷さんは、私が現職で若い頃、高校生の地域活動の推進に一生懸命に取り組んだ時に「みささヤングタウン」の会長として活躍してくれた人です。高校生で作るヤングタウンは、私に「思うことをやって良い」と言われて、公民館にドラムやエレキギターを持ち込み、思いを発散したり当時の町内有線放送で定時番組を持って高校生の意見を発信していた。

その彼が長じて大学に行き留学をした特に病気になり、その病気のために自分には子どもが授からないかも？と、医師から言われていたが、結婚して授かることができた。これをきっかけに、健やかに育てようと、子どもの友達やその父母と関り合いながら、居場所づくりを始めたこと。季節に合った様々な行事を計画したり、子ども食堂の開設に取り組んだり、体験を披歴してくれた。

その後質疑応答、そして終了後は我らのアド仲間「講師を困む会」を開催した。とても素晴らしい時間を共にすることができた。

私は社会教育が専門なので、学校のように教え子はないが、正に私が一生懸命に仕事をつづけたその中の一人が、このように頑張ってくれている。しかも私を忘れないで、一生懸命にボランティア活動を続けてくれていることが嬉しくてたまらなかった。本当に感謝・感謝である。

これからも親交を深め、我らアドに様々なアドバイスを願うことにした。

・・良き日に感謝・・良き共に感謝・・合掌・・

「カナダへの旅」

井上 廉女

カナダに住む二男のところ、二人目の子どもができるので、今年の6月から7月にかけてお手伝いに行ってきました。

場所は、カナダ西部にあるアルバータ州都のエドモントン市です。初夏の風が爽やかな季節、広い道路に街路樹と芝生が続く街並みは美しく、多民族・多文化を尊重し自然体で受け入れると言われる陽気で親切な人々、スーパーや週末のファーマーズマーケットには新鮮で豊富な食材が並び、美味しく、楽しく、とても快適で子育てしやすいところだと思いました。

徒歩20分の保育園への送り迎え、家事に買い物にと一日があつという間に過ぎ、とにかく毎日よく歩きました。



そして無事孫の出産の日を迎えました。病院は無料、順調ならば生後一日で退院というカナダ式にはびっくりでしたが、すくすくと育ってくれています。ベビーベット、ベビーバス、ベビーカーから着るものまで、ベビー用品のほとんどを貰ったり借りたり、ドネート(寄贈する)という意識が浸透しており、買わなくても近所の友達が持ち寄ってくれていて、とても助かっていました。

公共図書館の読み聞かせや親子の手遊びタイムにも参加してきましたが、どちらも男性の若手職員がされて、とても上手で楽しく過ごしました。今年、カナダはちょうど建国150年を迎え、お祭りのイベントも盛んです。

冬の寒さは厳しいですが、また行けるといいなと思っています。

「三徳山 投入堂参拝」

芳村 恵子

11月10日、久しぶりに三徳山に行ってみました。平

日だったためか観光客も少なめで、いつもなら困ってしまう駐車場も大丈夫でした。

三佛寺への階段を上り拝観料を納め、いよいよ投入堂を目指しました。登山入り口で入山手続きをし、靴のチェックを受けました。三徳山の前に小鹿溪を歩くつもりで登山靴を履いていたので、靴裏のチェックもオッケーでした。六根清浄の禪をかけていよいよ出発です。

木の根っこや鎖場や大きな岩をまるでロッククライミングのように登っていきました。道が登りと下りに分かれていたり、細い道を譲り合いの声をかけながらすれ違ったり、以前登った時よりは断然険しく感じました。

日本遺産認定第1号の史蹟というだけあって、何度見ても本当に「投入れた」としか考えられません。しかも平安の世からその姿のまま今も存在し続けられるお堂を創った「昔むかしの方の法力」に、ただただ畏敬の念を抱かずにはいられませんでした。

2時間近くかかってやっと下山した頃は、汗と冷たい風に身体もひんやりし、茶店でとち餅入りの暖かいうどんを頂きました。

秋も深まった楽しくも修行の一日でした。



三佛寺奥院 投入堂(国宝) 附愛染堂

編集後記

秋もすっかり深まり、先日は早々と霰も降って冬の気配を感じるようになりました。

平成29年も残り1か月となりました。皆様どんな年だったでしょうか。今後も青少年育成アドバイザーの活動に力が注げるよう、体調に気をつけて過ごしましょう。私もインフルエンザの予防接種カードが届く年齢になり、早速チクッと。

次回通信発行は3月を予定しています。一言を宜しくお願いいたします。